事例No.	2807
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	児島ジーンズストリート推進協議会

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・観光 ・地域運営組織

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

児島ジーンズストリート推進協議会による味野商店街活性化

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

ふるさとづくり大賞　団体表彰



児島ジーンズストリート推進協議会による味野商店街活性化

児島（こじま）ジーンズストリート推進協議会

DATA

事　例　名：児島ジーンズストリート推進協議会
所　在　地：岡山県倉敷市児島駅前1-37
連　絡　先：TEL（086）472-4450
　　E-mail suesa@kojima-cci.or.jp
ホームページ：http://jeans-street.com/

取り組みの概要

シャッター商店街となった味野商店街の活性化のため、2009年11月に児島ジーンズストリート構想をスタート。地域資源であるジーンズ関連企業を中心に出店誘致することで、商店街と地域の賑わい創出と地場産業である繊維産業のPRに取り組んだ。その効果は商店街だけに留まらず、児島＝ジーンズのイメージ定着や飲食店や観光業など幅広い業種に波及している。

評価された点

●空き店舗対策から実行し、数年間でジーンズショップ、雑貨店、飲食店も合わせて46店舗の新規出店を達成している。また、平常時も来街者数は伸び続け、ストリート全体として回遊性が増している。任意団体など、地域全体が連携した実施体制が組まれている点は他地域でも参考になる。

●「国産ジーンズ発祥の地」というコンテンツを活用し空き家活用対策にもコミットできる事例である。

●産地を訪ねてがっかりすることもある中、ジーンズを核にPRと周知、人づくり、行政等支援など複合的な要素を絡み合わせて地域づくりを進めている点を評価。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ　2005年～

・国産ジーンズ発祥の地としてPRするも、町には販売店も少なく、ジーンズ感は希薄。
・中心エリアの個人商店や味野商店街の衰退化に対し、地域活性化の機運が高まる。

・児島は日本屈指の繊維産業集積地。
・ものづくりの高い技能と技術。
・国産ジーンズ発祥の地としての自負。
・ジーンズは世界中で幅広い世代が認知している。

2009年～　児島ジーンズストリート推進協議会　発足

・味野商店街の活性化を目的に商店街や地域団体、行政、商工会議所などで協議会を構成。





・一方で、出店者の誘致を約40社に行うも、現状の商店街を知るが故に難航。
・多くの企業はOEM生産で成り立っているため、自社ブランドの立ち上げや直営店舗を持つことはリスクが高いと理解される。

2009年～　出店誘致と支援

・児島商工会議所と地元繊維企業が中心となり出店者を募集。
・2009年の出店状況は4件。

2010年～　地域交流会

・地域住民と出店者の交流、意見交換会を定期的に開催。
・旧商店街の理解が深まり、自発的に観光案内を行うなど、新旧一体となった町づくりがスタート。
・2010年の出店状況は9件。

・空き家対策補助金を活用した出店支援(行政)。
・空き店舗所有者との家賃交渉、出店者PR（児島商工会議所)。

2012年～　ソフト事業の実施

・ジーンズの展示即売会イベント(4月)。
・デニムを使用したアートイベント(10月)。
・デニム生地のひな人形展示(2月)。



2012年～　ハード事業の実施

・ストリート内の公道を藍色に舗装。
・ストリート看板設置。



・行政や商工会議所、地元企業で実行委員会を立上げ、地方創生推進交付金を活用。

2019年～　JAPAN DENIM DAYS 開催

・ジーンズに特化した体験型イベント。縫製や加工工場の一部を再現し、職人と一緒に産地のものづくりを体験。
・児島ジーンズストリートとの回遊性。
・インフルエンサーによる情報発信。
・市民参加型デニムファッションショー。
・海外バイヤーを招聘した商談支援。





・2023年には出店者は46店舗にまで拡大した。

今後の展望

・インバウンド向けの環境整備や飲食店の充実。
・繊維産地としての影響力を国内外に高めていく。
・モノ、コトだけでなく、人を大切にしたまちづくり。

受賞者のコメント

この度は大変栄誉な賞を受賞致しますこと大変感謝申し上げます。
振り返れば15年前(2009年)、シャッター化が進んだ商店街の再生、地場産業の活性化を念頭にさまざまな企業・団体、そこに関わる「人」を巻き込み、「ここにしかないもの」を創り続けてきましたがまだまだ道半ばです。今後も増え続ける来街者のニーズに沿ったまちづくりを推進し、世界から注目される活気ある街の実現に向けて心血を注いでいきたいと考えています。